

マニラ日本人会 新会長

Takeru Matthew Okamoto 氏 に聞く

岡本 和典 前日本人会会長のご帰任に伴い、2026 年 4 月より
岡本 健 氏が会長にご就任されました。

名刺を頂き、日本語記載の面ばかり見ていた編集委員は、裏の英文面には気づかず、面談を終えた後、「岡本 健」の読み方が気になり、英文面を見て、思わず、Takeru Matthew Okamoto との記載に若干驚き、前会長も「岡本」氏であったため、敢えて表題に英文名を記載させて頂くことにしました。

インタビューを終え、この名を見た時、「なるほど」と、思わず納得させられたお名前でした。



Takeru Matthew Okamoto

General Manager
 Manila Office

1. 家族で米国移住

1967 年生まれの Okamoto 会長。

お父様は、非常にバイタリティーがあった方のように、会長が
 10 歳の時、家族で渡米する。その時のお父様の商売は、何と
 「トランプ・カード売り」

一攫千金を夢見るカジノの街「ラスベガス」では、毎晩、カード・ゲームが数多く繰り広げられ、1 ゲーム毎に、カードは一式全部、新しいものに交換され、一度、使用されたカードは廃棄される。そのカードの貿易で、一家の生計を立てていたそうです。

その後、家族はロサンゼルスに移住。Okamoto 家族は、アメリカで生活していたのです。

2. 日本への交換留学と就職

そんな Okamoto 青年に転機が訪れたのは大学卒業時、日本に憧れを持つ彼は、交換留学の機会を得て日本へ来ることになる。

家族内の会話は日本語だったので、既にバイリンガルであった Okamoto 青年は、大学卒業を前に、当時不景気だったアメリカではなく、日本で就職することを考える。

1990 年当時、羽田空港は拡張前。日本の国際線は、National Flag Carrier の日本航空がメインで、「日本航空では英語人材の競争が激しいのでは」と考えた Okamoto 青年は、自分の経歴を書いた手紙を、これから国際線への展開を考えていた全日本空輸(株) All Nippon Airways に送る。当時も今も就職活動と言えば、マーケットや業種は絞るものの、何社にも挑戦するのが普通だが、本当に ANA にしかコンタクトを取らなかったとのこと。そして、晴れて 1991 年に ANA に入社することになる。

3. 海外赴任とマニラとの出会い

アメリカで育ち、英語も堪能だった Okamoto 氏は、さぞかし海外勤務歴が長いものと思っていたのですが、何とフィリピンに 2022 年 4 月に赴任するまで、ずっと東京周辺から異動したことはなく、出張はあったものの、初めての海外赴任地が、ここ“フィリピン”。

これまで何度も海外勤務の希望を出していた。フィリピン赴任前には、パイロット養成施設の立上げ業務に従事しており、海外でのパイロットの派遣会社がハワイ・ホノルル (HNL) にあったため、Okamoto 氏は、HNL での海外勤務を希望していた。

2022 年異動内示日の数日前、上司から「Okamoto は英語が堪能だから、海外ならやはり英語圏だよな」と言われ、期待に胸を膨らませ、内示日の前まで HNL のコンド物件に目星を付けようと調べていたとのこと。

そして迎えた内示の日、上司から伝えられた赴任地は、HNL ではなく、何と MNL だった。

マニラに来て、幼い頃に住んでいたロサンゼルスダウンタウンに似た印象を受け、住みやすく、家族共々気に入っている。

父親と息子と親子三代でゴルフのプレーをする夢は、以前、アメリカで果たさせていた。

赴任して5年目を迎える今年、もう1つの夢である、妻と娘、そして横浜にいる息子と4人でゴルフのプレーをする予定を6月に立てていたが、息子の搭乗予定だった便が台風の影響などで搭乗できず、夢は先送りとなった。改めて夢をかなえるまではマニラで頑張りたい、との思いであるとのこと。



現在、岡本氏は、3つの肩書を持つ。

マニラ日本人会 会長

マニラ日本人学校運営理事会 理事長

全日本空輸株式会社 マニラ支店長

上記のような背景を持ち、現在3つの肩書を持つ岡本氏に、“マニラ日本人コミュニティ”に対する思いを文章に綴って頂きました。新会長の思いを感じ取って頂ければ幸いです。

タイトルは、『「つながり」が生み出す力』

「つながり」が生み出す力

マニラ日本人会 会長 岡本 健

会員の皆様には、日頃よりマニラ日本人会の活動に対しまして、多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私自身、マニラ日本人会の会長ならびにマニラ日本人学校運営理事会の理事長という立場を本年4月よりお預かりする中で、改めて感じるがあります。それは、「人と人とのつながり」が、海外で暮らす私たちにとって何よりも大切な財産であるということです。

私たちは、それぞれ異なる目的や背景を持ちながらフィリピンで生活しています。企業の駐在員として赴任されている方、ご家族とともに生活されている方、自ら事業を営んでいる方、長年にわたりフィリピンに根を下ろしている方など、その環境はさまざまです。しかし、そのような多様な人々が「日本人コミュニティ」という共通の基盤のもとで支え合い、協力し合うことで、より豊かな生活環境が築かれていることを日々実感しています。

マニラ日本人会は長い歴史を有し、多くの先人たちの努力によって発展してまいりました。諸先輩方が築いてこられた伝統や信頼関係は、今日の私たちにとって大きな財産です。一方で、時代の変化とともに、会員の皆様のニーズや社会環境も大きく変わってきています。

デジタル化の進展によりコミュニケーションの形は変化しましたが、実際に顔を合わせて交流し、互いを理解し合うことの価値は決して変わりません。むしろ、多様な価値観が共存する現代だからこそ、人と人との直接的なつながりが持つ意味はより大きくなっているように感じます。（自身の商売は抜きにしても…）

日本人会では、文化行事やスポーツ大会、各種セミナー、交流イベントなどを通じて、会員の皆様が世代や職業を超えて交流できる機会を提供しています。これらの活動は単なるイベントではなく、コミュニティの絆を深め、新たな出会いを生み出し、互いを支え合う基盤を育む重要な機会です。

また、私に関わる日本人学校においても、コミュニティの力の大切さを強く感じています。子どもたちは学校だけで成長するのではなく、家庭、学校、地域社会が一体となって支えることで大きく成長します。海外という環境の中で学ぶ子どもたちは、多様な文化や価値観に触れながら、将来の国際社会を担う人材へと成長していきます。

その教育環境を支えているのは、保護者の皆様、先生方、学校関係者の方々、そして日本人会をはじめとする地域コミュニティの存在です。教育とコミュニティは決して別々のものではなく、互いに支え合う関係にあります。子どもたちの健やかな成長は、私たちコミュニティ全体の未来につながっているのです。

近年、フィリピンと日本の関係は経済、文化、人材交流など様々な分野でますます深まっています。私たち日本人コミュニティも、フィリピン社会の一員として地域との良好な関係を築きながら、相互理解と友好の促進に貢献していくことが求められています。

異なる文化や習慣を尊重しながら共生していく姿勢は、私たち自身の成長にもつながります。フィリピンの皆様から学ぶことは多く、その温かさや助け合いの精神は、私たちが見習うべき点も少なくありません。これからも地域社会との交流を大切にしながら、信頼される日本人コミュニティを築いていきたいと考えています。

日本人会の活動は、理事や事務局だけで成り立つものではありません。行事への参加、ボランティア活動への協力、各種委員会での活動など、多くの会員の皆様の支えがあってこそ運営されています。この場をお借りして、日頃より活動を支えてくださっているすべての皆様に、改めて感謝申し上げます。

これからもマニラ日本人会は、会員の皆様にとって「参加してよかった」「所属していてよかった」と感じていただける組織であり続けたいと考えています。そのためには、皆様の声に真摯に耳を傾け、新しい時代にふさわしい活動を積極的に取り入れながら、より魅力的なコミュニティづくりを進めてまいります。



上空から臨む Ninoy Aquino International Airport

最後になりますが、マニラ日本人会のさらなる発展と、会員の皆様ならびにご家族のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして、これからもこのマニラの地で、互いに支え合い、学び合い、成長し続けるコミュニティを共につくっていただければ幸いです。

今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。